古今奇談

四伽百物語

寶
へ 13
1802
1-6

へ函13
番号 1802

人情味津々

長者万灯

一色

於奇鶴蔵

茶屋徳三郎

茶屋徳兵衛

大日本

今辰

四仏百物語序

春ごとに花の咲かんを待ちてかの人の来ることをかぞへ、秋ごとに月の出でんを詠めて来ぬ人を恨む。梅の香いとあはれ、月の影新たなり。神は移り、人は変る。今日いとど先立ちぬ。我が種をまきし人、今はそれ。例の二人、三人、そこそこに集つる。それぞれ語りて、名残の山、佛ましる地、弥生の社、秋ひとしほのいと老かまして、死の苦、周章ぶりもとうしあるを、そこそこに。こは、なるべきものなりとて、友のひとりふ、情深き人のつくりたる二十六話の口絵を活て、伝をもとめ、ひとりまことにうれしく思ひて、奥の一字尾にしるしてみ、長い言葉、物しるし世捨人よりの、哀へ、より我が方に宿を借りもとめ、書ひとよ語りいの法文のとあり、つくるり。

藤野潔氏遺愛之記
明治三十年四月二十四日
藤野潔 遺族寄贈

まる二月に希まれし物語を作りよせて。我ひとり笑んもこゝろ下こゝろ。
と男はこゝろ使ひ作りつる三つよ。我もやくん勧めてさらばよかるべくあど
所の人。まろが物語の始方かゝれと。書なれども。はなはだうるはしとて。
硯ひきよせて。一つく書てゝらたゝ。つゝ石清水なる事なりとなど。いとゝ。
哀も深くもあるかな。すべらぎ。この宮の。殿ありゆく。数のやうに十つ十まりと。
なりあゞ。ありもつゝまと。紙くいまもあゆくねふ
ふたりとなりけるふ。和やまとすべつふ。哀ひとつもあん。書をしる
もまこゝ。なりて。湯の白い。彼友乃方へ。もとなりうる。行よ。又あるこ
ひるもも乃ゝ。すしが。あをとかはかをの。ありふ。書て。ゆけ。ありな

白梅軍記 終

一本

加百物語巻之一目録

百地張の出人　六十六部の信如実
同　多紀人　記恒　吉辨子
同　魚射　田人
亨乃主人　白梅軍記

勇刀師　竜宮へ入　小賢八百年年を
刀の掌　玉慶玉田の奇変
乃塚の人　渋崩砦
灯火の女　小玉友こう妖怪
宮使　仙寿の奇特

京都帝国大学図書

八 伽羅物語巻之八

夢刀師毫之事

今は二の代乃右毫靠れむ[illegible]の神社仏閣のいとうを絶[illegible]をおこし
みの声ちらるゆえ[illegible]の[illegible]多面六の[illegible]
[illegible]ある紙つりせめひしーうい[illegible]義乃あ[illegible]ひの[illegible]多面六の[illegible]
世[illegible]乃乃霊[illegible]ゆ[illegible]を[illegible]
中ゆを通し元孫のもい小[illegible]吐出[illegible]ゆ[illegible]切かりけ[illegible]
八迂[illegible]の神[illegible]りて[illegible]乃
[illegible]ん[illegible]ん[illegible]
[illegible]
しい[illegible]
[illegible]

慢幕こゝにあらしの神人ぞゝひりいまゝ河の淀をつゝ[illegible]
ゆのもりの[illegible]集まつゝて彼方此方ゆゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]年ゝけゝ
る夜新き人ゆゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

のつるぎのけんをもつてうちうんぬきとこの二刀にて腹をかきりて死
たるを聞きつけ者共いそぎ来りて死骸を取れば者共の仕業と二人ともあるを
見るに仕方なく死骸を埋て彼死骸をしぬ出新寺町の辺へ
の石碑をたてて戒名をきざみ線香をたむけ後よりもはりこをかけのけ
ふかく野辺に出て回向を刈ばいとて張人をたて男二人をつまして毎
晩毎者共の居乃部屋にいふ後のうすかこの所とおもしかつ
ら殺されて非業に死をもうとおもてい行を彼母こそ少をあて
を記人をとらせて学よ殺ひるなくるを我子のよてこそあひより彼女
殺をさせ地をとれあへとと知者共新町をこと
らあつけしらい者共も仏天の気をおそれしかこい者
ら御尼てけりけりを白状をこれも一度けりと侍ぐんとをこと
思しこの様子をふ内で法師の者をて人をあやまい方を死逝を
死しこ法よ雷自ひ法と信ん心けるよ者共をのうちけり

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

つて鎧ごろあらを断そして切ぬを断そして切ぬとあるく溺
の汁傷出しを拭セ下知して左刃さ
きいたち切くふ大なる石乃門あり て後の頼をかろ〳〵あるを胴突を
もて打たつ〳〵つとを切〳〵いそ迎いたんかたちを不ようの射とい
たちに門のあり矢を射出とる乃ごとくにたちに成しい迎
いたんもたん〳〵盗賊ども八人所出とる和を切り
たりん出たつを不ふれとたんに成たつ〳〵たちけてのつをを拭セいまとる
ふ教とのめて大和の怪異よあへとも成意とも叱て云
郎つ死して之〳〵ふ人と治め年ちよりくくの月日と後ふる
塚ゆり狐狸の跡変ゆと切〳〵紙に見ちく上者の人乃塚を
らんとあるよ仕のけ来〳〵揺ちや出る之退て石を投ふと声とくふし
いを毎日礫をんて投つ〳〵ぬ石を拾て者を射て打ち教別
めてやて矢待を居ふとて〳〵ぬ入ぬ一同ふ

ふ胴の矢ふ立て弟二の門ふ立の門ふ立の龍とをもあ
をい文軍置と立を〳〵乃ちんちふ立ふ立ふ立のを
とを〳〵眼仏ふ切而を〳〵ふ二を〳〵ふ切ふを拭セ
ふを〳〵ふ拭ふ秘の柄狐乃柄とふの〳〵教なとを切〳〵
を盗賊ふを出ふ立ふ横ふ石ふ出ふ力を力ごとく
く拭ふを〳〵ふを成ふ出て立ふ黒ふ出て別ふ出ふ
の人形ふ切ふを拭ふとふ入乃上とふ切ふを不ふ出ふ大
ふを〳〵ふ切ふ立ふを〳〵ふ出ふ矢の庫ふ切ふ拭ふ
拭ふ赤ふ出て出ふ矢の鏃ふ珠玉の彫ふ成ふ拭ふ
ふ立ふ出ふ而ふ立ふ出ふ〳〵ふ郷狐ふ宮ふ成ふ〳〵ふ
ふ立ふ切ふ而ふ出ふ立ふ人ふ出ふ刀の之ふ立ふ切ふ立ふ
ふの庫の後ふ拭ふ立ふ大ふ立ふ上ふ庫乃倉ふ拭ふ後乃彫ふを切ふて
ふの彫ふ宮ふを立ふ八方ふ拭ふ立ふを立ふを拭ふ玉ふ龍

[illegible]曹[illegible]ねてんを問もの[illegible]と又を訓[illegible]
古代の道具付物[illegible]徴あけ[illegible]ふ濯[illegible]
[illegible]地して我よ[illegible]
[illegible]白[illegible]て作[illegible]籠を
[illegible]櫃の[illegible]
[illegible]の[illegible]秋の面[illegible]
[illegible]と呼[illegible]の面
[illegible]と[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]門の[illegible]

[illegible]のあくおさ[illegible]る後セハ[illegible]籠の[illegible]
[illegible]
[illegible]

灯史乃女

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

物あり[illegible]白眼ハ彼女[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

とのいひをしてゆめのんの四れをきてゐ用好表ゐむうのて組れ
ちゐ〜ゐ焼ありてれを去ゐ〜ゐりて毎月のまゐけ〜あの れ
のゐまりあり手ゐゐとゐしゐ浮祢のふをゐゐゐりゐあ
祢ありいあゐれ祢りひゐあ〜ゐけあ〜ゐたゐちゐてはの浮り
ゐゐとゐえ〜ゐあゐの女い毛しあゐ〜みも分にゐてちゐまり
毛ゐあゐ毛ゐ〜ゐゐゐれ里のひりゐゐゐゐなりゐゐゐの伊の
いのゐゐいゐ今ゐんゐとゐゐ毛ゐ〜ゐけ家にあゐ〜ゐ地手ゐ毛ゐ去ゐ
ゐ〜ゐ毛ゐゐゐゐ今ひゐの毛ゐゐゐゐ〜ゐ〜ゐ今ゐ代ゐ
と毛てけ家ゐ新ゐゐ〜ゐの利ゐ飛ゐ〜ゐ〜ゐにゐをゐる
ゐ毛ゐの人ゐゐとゐ人焼ゐゐて利ゐ〜ゐ姓の倡ゐゐゐて毛ゐ孫も新ゐ
ゐ人ゐゐゐと後乃板ゐ米ゐて手ゐ〜ゐ札ゐゐゐて毛ゐ〜ゐゐゐ
ゐ伊ゐゐ〜ゐ〜ゐ毛ゐ浮ゐ〜ゐ去ゐん二ゐゐゐ
ら毛ゐりゐゐれゐ久ゐ〜ゐて伊ゐのゐゐてゐ娘ゐゐ〜ゐ〜ゐと

[illegible]
く客殿いろいろく他より落れてるものの人のもて
くるしきものの紙しきとんをうけ立てもうけ
きそとみ母の新しくもうしてあるものの人よりもんも思
をかつてつくりてくふけら紙ばりの方の絵とうや
いつものはよりもまりれ新編あるものの男女年ものあるものの海
の湯よりくらべりけ冊海よりもえてもかれ風和のきくもも
なりまくもとけ紙うかとかるさかるとかるいんかりは尻よ
てあるよりて柿本絵あるものの海ものとかとんけてこ
を出さらかけてのの猫と母ものとして低ものとあるものら紙らのみ
しりものんるくものとかれ紙して書ものりけ絵よあ紙
けをれんよりの中浦の海ものとけあるものれ家る
石帝くを物のてうくもおくして家とうつあのよ

[illegible]
紙ものみ家のあるとあもひさ
ものもふよびかけ母をくを絵をものもも
極のれんものるとるふけ母をんをるくものて
ものるれの人ものんけの大人けのものさんものを紙ものを
もていくものものとりつけあるれ人のんもれ紙そをを紙
とものいるるの和の者ものこを行るつれと者ものん中く
ものるもの者て五るもを紙紙人いくらい使てひをものふ
母う機紙をりつくの者ものるる紙ものの紙ものるる
いるいるや紙の絵乃ものるものるものの
ものをんせよと居をうん紙母つものふけものりを大るものるふんり
絵色れをこうらんて拾ものりるる紙さ出を紙人を出をれるるより
いよくものつくの紙ものあと紙のよれとをる出をりくものも
母をものをくをこのいそうけあいさりしれのを紙人も大

よ無くらう立面白こうしの内よりあるる隈々家さう
たて相石ちよ姫を寄ひと紙数へうくさてゆくなりと匂
かくよ母の新いまいせんくるるくあ那なの新よあるくすと新くさ
ちなれかりしあるくせくるる海ふ刷のもりうり例の孔をれくて
家る面は下のやくよさしつげて焼くるあくしを俄よ大くみあり
大面ちとりふーてしあるつまけりけうくくと歳うくるのとありあや
まくもしけ家のむるのあるる磯よ歳くしとうくくしるあてくしあるあけ
てうくはて猫加人せてくしいるまて寿へくち右さ係くものあ
猫くしくあるふくさなりくるうさて紙家中てうくちくくるくち
ちくと大くくさけ世の切るなるくくなるあ今紙のくあくいあるくしあ黒く
宮家　くくて是成和乃宮家よあるくるとて

四仏百物語巻之終